

「リスク共生社会シンポジウム」

リスク共生社会のかたち

—弱みを強みに変える地域経営—

国立大学法人横浜国立大学

リスク共生社会創造センター

Center for Creation of Symbiosis Society with Risk



株式会社三菱総合研究所

日 時： **2016年8月4日（木） 14:00~17:00**（開場13:30-）

会 場： 株式会社三菱総合研究所 4階大会議室A B

（東京都千代田区永田町二丁目10番3号 受付：地下1階）

参加費： **無料**

横浜国立大学リスク共生社会創造センターと三菱総合研究所 科学・安全政策研究本部は、この度、リスク共生社会の実現に向けたシンポジウムを開催いたします。

日本の社会は、地震、津波、洪水、火山噴火など、多くの災害リスクを抱えています。また、少子高齢化や過疎化、産業の成熟化、財政の緊縮化といった課題にも直面しており、住民の安全・安心とともに、生活の質や利便性、産業の振興をバランスさせ、地域の豊かさを最大化する地域経営が求められます。例えば、都心部の洪水危険地域では、高い堤防だけでは地域の課題を解決できません。地理を活かした保育所や公園など子育て環境の整備、建物のピロティ化とそのスペースを生かした賑わいの創出、商業者による防犯・防災見回り体制、民間施設の協力を得た避難所利用、企業の事業継続を支える公共サービス強化など、地域の行政と住民、企業が知恵を絞り、災害リスクの弱みを地域社会の強みに変える発想が重要です。

本シンポジウムでは、林春男先生をお迎えして地域防災の潮流について解説いただいた上で、リスク共生社会のコンセプトをご紹介しますとともに、リスク共生社会を実現する地域経営の方向性について議論していきます。

プログラム

13:30	開場
14:00	開会
14:05~14:45	基調講演 「これからの地域防災の潮流」 林 春男 氏（国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長）
14:45~15:15	講演 「リスク共生社会の創造」 野口 和彦（国立大学法人横浜国立大学 リスク共生社会創造センター長）
15:15~15:45	講演 「地域経営と防災」 石井 和（株式会社三菱総合研究所 科学・安全政策研究本部 主席研究員）
15:45~15:55	休憩
15:55~16:55	パネルディスカッション
17:00	閉会

■ 講演者・講演概要紹介

林 春男 氏

国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長

1951年東京都生まれ。1983年カリフォルニア大学ロスアンゼルス校Ph.D.
専門は社会心理学、危機管理。

京都大学防災研究所教授を経て、2015年10月1日より現職。2013年9月、防災
功労者内閣総理大臣表彰受賞。文部科学省科学技術・学術審議会 専門委員、日本
学術会議連携会員等。

「いのちを守る地震防災学」「しなやかな社会の挑戦」など著書多数。



◆ 講演概要

阪神・淡路大震災が発生して以来、最近の平成28年熊本地震まで多くの災害が各地で発生している。こうした事例は、防災大国であるはずのわが国でも、被害の発生を予防する被害抑止力が十分ではないことを示唆している。いいかえれば、被害の発生を前提として、そこからの立ち直る過程まで含めた総合的な観点が今後の防災・減災が必要であることを示している。従来の災害を起こさない予防力に加えて、発生した災害を乗り越える力（回復力）を加えた総合的な力の必要性である。これを世界では災害レジリエンス（Disaster Resilience）と呼んでいる。これからの防災・減災は、まさにレジリエンスを高める方向に向かわなければならない。具体的には、災害の予測力、予防力、対応力をいかにバランス良く向上させるかが問われるのである。

野口 和彦

国立大学法人横浜国立大学
リスク共生社会創造センター
センター長



東京大学工学部航空学科卒業、
横浜国立大学工学博士号修得。

1978年株式会社三菱総合研究所入社、同社にて研究理事、
リサーチフェロー歴任後、現在に至る。

ISO/TC262日本代表委員、内閣府中央防災会議専門調査
会防災対策実行会議専門委員、政府業務継続に関する有識
者会議委員 等

「JSQC選書 リスクマネジメント」「リスク三十六景」
など著書多数。

◆ 講演概要

高度化された社会では、顕在化した課題に対し順次対応して
行くという手法では、目指す社会を構築することはでき
ない。

社会のリスクは、それぞれで独立ではなく複雑な関係を有
しているため、ある問題への対応策は対象とする問題への
影響だけではなく社会の多様な側面への影響をもたらすか
らである。このような状況下においては、社会の多様な価
値観でリスクを評価し、その対応の最適化を考える必要が
ある。

本公演では、21世紀社会におけるリスク対応の最適化を目指す
リスク共生社会の構築について、その概要を紹介する。

石井 和

株式会社三菱総合研究所
科学・安全政策研究本部
レジリエンス戦略グループ
グループリーダー、主席研究員



京都大学大学院修士課程修了、

1999年4月三菱総合研究所入社、現在に至る。

専門はリスクマネジメント・危機管理。防災や安全に関す
る政策立案及び調査研究、企業のコンサルティング等を手
掛ける。

◆ 講演概要

地域経営は地域の豊かさの最大化を目指す活動である。
災害リスクが高い地域ではそれなりの守りが必要であり、
ソフト・ハードの防災投資は欠かせない。

ただし、防災のためだけの投資では豊かさの最大化は図れ
ない。限られた資源の中で豊かさの価値に照らした一石二
鳥の防災を目指すべきである。

なお、豊かさの源泉は地域のプレイヤーである企業や市民
の活力であり、地域経営ではそれらの巻き込みを前提とし
なければならない。

地域経営の視点から、これからの地域防災のあり方を考える。

